

# 所管事務調査報告

十二月定例会最終日に、各常任委員会から所管事務調査についての報告がなされました。

## 総務常任委員会

### 中心市街地活性化の推進について

平成十四年九月二三日、宮之城商工会TMO（中小小売商業高度化事業）構想推進委員会と意見交換会を実施した。TMO委員会での意見は、本年度は平成十六年度B調査実施に向けた地権者、地域住民の合意形成を図っているが、本事業は中心市街地だけでなく、都府県地方一帯にも参加を呼びかけなければならないとのことであった。

次に、十二月二日、三日、宮崎県都城市と西都市での調査を実施した。

都城市は、人口一三万二千人で、全国に先駆けてまちづくりの積極的取り組み組んでいる。計画では多くの住民の要望を受けて、都城駅周辺と商店街中心の中央地区及び市役所周辺の一六〇号を、中心市街地地区に設定して、土地区画整理事業対象地区とするもので、平成十二年三月にTMO構想を策定、同年十二月には市が国と折衝の結果、商業中心地近くに国の六省庁が入居する合同庁舎建設を計画、シビックコア地



都城市での現地調査

区整備計画が実現し、これを核として商業集積地域と連動させる交流拠点づくりとして、現在建設中であった。

商業中心地の中央地区では、大丸百貨店を中心とした一三号で、減歩率二〇号、総事業費一七億円で、中央東部土地

旧大丸駐車場跡地には、二階建て商業モール（敷地五、五〇〇平方メートル）の建設を計画している。また、近接地には、れんが色を基調とした南欧風の商業集積「オーバル・パティオ（四、二〇〇平方メートル）」が、総事業費一億二〇〇万円をかけて建設され、

現在九店舗で売上一〇億円をめざしている。

また、大丸と中央通りを結ぶ回廊として、区画整理事業による「個店協同建替え事業」が平成十三年度に実施され、地権者八人が建築様式を合わせた協同店舗「Cプラザ」を建設しており、各地権者が換地の二〇〜三〇号を共有通路として提供し、建物内で回遊性を持つよう工夫されていた。このCプラザと隣接する大丸は、一・二階部分の壁を取り除き、Cプラザと双方向の往来ができるようにしたため、売上増につながったとのことである。

市の担当課によると、民間の商業施設整備事業と区画整理事業がタイミングよくかみ合い、短期間に区画整理事業を中心として、すべての事業を集中的に立ち上げる事ができたことで、事業にはずみがついたとのことである。